

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 地域政党きずな庄原議員団

報告者： 國利 知史

実施場所： 鹿児島県霧島市牧園町	実施日： 令和4年10月7日～8日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 本市が力を入れる比婆牛も出品される第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会への視察	
■参考とすべき事項 全国から多くの和牛が出品された全国和牛能力共進会の視察へ行き、今まで全く知らなかった和牛の世界を知ることができた。 全国の和牛生産者の情熱や各県の力の入れ方を実際に見ることで、和牛市場の大きさや重要性を知ることが出来た。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） 庄原市内からも比婆牛が出品されており、一般生産者に混じり庄原実業高校の生徒も出品していた。若い生産者にとっては良い経験になったと思う。今後は庄原市及び広島県を支える産品の一つとしての地位を確立させるためには、このような若い生産者の力が必要となると感じる。私たちはそのサポートを行っていかねばならないと感じた。 広島県は他の県、特に和牛に力を入れる県に比べて、規模や力の入れ方が弱いと感じた。本市において比婆牛に力を入れていくのであれば、比婆牛基牛の増頭が必要だが、本気で今後の対策を考えていかねばならない。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 地域政党きずな庄原議員団

報告者： 林 高正

実施場所：第12回全国和牛能力共進会 鹿児島大会（鹿児島県霧島市）	実施日：令和4年10月7日～8日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 5年に1回開催される和牛のオリンピックともいえる、「全国和牛能力共進会」ですが、今回の開催県は前回大会の覇者、鹿児島県でした。あれから5年経過しましたが、鹿児島県の二連覇が今大会の焦点でもあり、その強さはどこから来るのか探って見たい気持ちで視察に出向きました。	
■参考とすべき事項 鹿児島県は確かに農業県ではありますが、その取り組みは徹底しています。何でもかでも手を出すということではなく、強い農業分野を徹底的に磨くという手法であると思います。鹿児島県は黒牛の他に、黒豚や薩摩地鶏が有名ですが、県民が好んで食するのは、黒豚の豚カツやシャブシャブ、地鶏の刺身等です。私の勝手な考察では、薩摩焼酎に良く合う料理は黒豚や薩摩地鶏ではないでしょうか。ということは、黒牛は、外貨を稼ぐための重要な商材であり、高値で取引できればそれだけ農家所得の向上に繋がり、ひいては鹿児島県経済も潤うという構図がみえます。 今回の共進会会場付近には広大なお茶畑があり、鹿児島県がお茶の一大産地であることも理解できます。広島県と比較すると、何でもある広島県ですが、全国一と誇れるのは、レモンとクワイだけみたいです。これって、ニッチですね。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） 比婆牛を他の産地と同じ土俵で戦うことは、どう考えても不利というか無理がある様に思います。ブランディング戦略を再度練り直して、徹底的に希少であるという点を前面に出して戦うのはどうでしょうか。広島県のレモン生産も最初は上手くいかなかったそうですが、徐々に増えていき、国内の生産量が少ないことも手伝って、日本一になりました。そうすると、「日本一の広島レモン」が冠につくので、宣伝媒体としては間違いなく日本一になりました。 庄原市は過去に、どんぐりころころ豚とかもやりましたが、長続きしませんでした。それは何故か、もう一度考える必要があります。でないと、生産者もついてこなくなり、二度と立ち上がれなくなることも考えられます。その対極は、一部の農家だけを対象としたものではなく、JAとも連携した庄原市の産地化（特産化）を勧めることも大切です。 結論として、限られた資源を活用するのですから、選択と集中が重要と考えます。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者：徳永 泰臣

実施場所：鹿児島県霧島市	実施日：令和4年10月7日～8日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） ○第12回全国和牛能力共進会種牛の部を視察研修した。	
■参考とすべき事項 ○全国和牛能力共進会は全国の優秀な和牛を5年に一度、一堂に集めて、改良の成果やその優秀性を競う大会であり、全国の和牛関係者にとって、この大会で優秀な成績を収めることは、各道府県の和牛ブランド力の向上に繋がることから、最も重要な大会である。 ○この第12回全国和牛能力共進会において、現在の比婆牛ブランドの現状について良く分かった。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） ○今後は比婆牛ブランド力の向上のためにも、比婆牛素牛の増頭に向けた取り組みをさらに続けていくことが重要と考える。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。